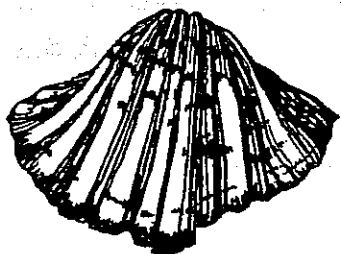


緑のまちあれこれ

○ ワールドカップで日本中が湧き立った。惜敗というか、これが日本の現状なのだろう。サッカーだけではなく、日本のスポーツ界・経済界を含め、外交・防衛の認識、日本国民の国家意識のあり方をあらためて再認識したい。

○ 4月から5月にかけて1日おきに寒かったり、暑かったり、気温の差があまりにも急激に変化して、野菜や果物の出来が2週間は遅れたという。人間の方も同じ。体調が気候の急激な変化についてゆけず、おかしくなってしまった人が多いようだ。

○ 小塚山のトンネル工事はともかく終了し、排水路とか電気設備とかの内部整備に移っているようだが、一向にそうした情報は聞こえてこない。小塚山周辺のトラックの出入りはそれでもかなり減ってはきている。北総交差の工事は予定通り進捗しているのかどうか。

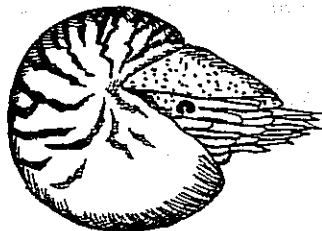


○ 7月17日から成田空港からの特急が北総を通るという。時刻表が改正され、改善され、収益が上がれば、当然運賃は値下げされなくてはならない。な

んといっても全国で一番高い運賃なのだから。

○ 小塚山の西側、通学路から公園への入口あたり（いまではトンネルの松戸側の開口部）は、やや低くなっていて、雨が降ると水が溢れてその下の現在は住宅の建っている沼にその水が流れ込んでいた。このあたりの斜面にはススキや萩の自生地であり、春には群生する山ボケが赤い花を賑やかにつけたものだ。野ウサギが庭先にまで現れたこともあり、夜には梟が啼く声も聞いた。通学路にはあちこちモグラ穴があげられ、夕方にはコウモリが飛び交うこともあった。今から50年前、小塚山の斜面を切り開いて建売住宅が出来始めた頃、ウシガエルがいた沼には、日曜日ともなればザリガニ釣りの子供たちの歓声が終日聞かれたものだ。道免き谷津には水田があり、鮎やドジョウやメダカが群れ、初夏にはホテルが舞うこともあった。森の音楽会を開催し始めた頃までその面影は残っていた。

■ 編集後記 ■ 前号には菅野の高野さんの文章を寄稿していただきましたが、今回は矢切の現状について石原さんから原稿をいただきました。暑い最中になりますが、総会には皆さん是非ご出席をおねがいたします。



緑のまち

— 北国分だより —

第94号 2010.7.15 発行



編集 北国分外環対策協議会
市川市北国分 2-29-12 越田方
Tel 047-372-8936
www.midorinomachi.net

第40回 北国分外環対策協議会 総会

日時 平成22年7月31日（土） 午前10時～12時
場所 小塚山研修所 第2研修室（2階）

オープニング

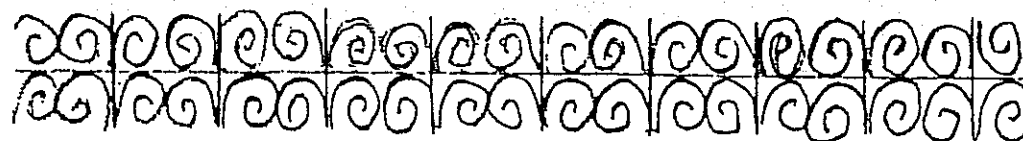
謡曲「羽衣」 出演 齊藤諒三・萩原法子さん

* わかりやすい解説付きです。

議題

- 外環の現状および今後の活動について
 - ・ 活動報告
 - ・ 会計報告
 - ・ 新年度の計画
- 小塚山を巡る環境の現状について
 - お話 村岡幸生さん
 - （日本野鳥の会会員・バードウォッチング案内人）

今年は会が発足して40年目になります。総会のオープニングに、北国分在住の齊藤さん・萩原さんに謡曲をお願いしました。わかりやすく解説付きですので、謡曲に馴染みのない方にもお楽しみいただけます。会員の皆さん、お誘いあわせのうえ、どうぞお出かけ下さい。新しい方のご参加をお待ちしております。



第17回森の音楽会 報告

今年もよい天気恵まれた5月9日(日)、第17回森の音楽会が小塚山で開かれました。約200名の方々が参加され、午後のひと時を尺八と箏の調べに耳を傾けました。

森の木々が切られ、フェンスに囲まれた小塚山ですが、目にまぶしいほどの新緑の下で、尺八(吉田長生さん)と箏3面(阿佐美穂芽・門井良博・日吉章吾さん)の美しいハーモニーに、心安らぐ音楽会でした。当日は、多くの方々からカンパをいただき、有難うございました。お寄せいただいた多くのアンケートには、「とても良かった。これからも頑張ってください」と励ましの言葉も書かれ、実行委員会一同感謝しております。これからの音楽会に役立たせていただきます。



小塚山の森の音楽会

鈴木美津子

今日は小塚山の音楽会! 私は毎年この日を楽しみにしています。皆さんの日頃の行いのおかげで、素晴らしい晴天が広がりました。毎年、招かれる方々の演奏も楽しみのひとつです。今年は箏。間近で聴くのは初めてで、全身が、森中が、箏の音色に包まれました。その音は、人も、鳥も、木々も、花々も、みんなひとつに包み込み、みんな一緒なんだと語りかけているようでした。

外環工事により小塚山や私たちをとりまく環境は日々厳しく変化していますが、この緑の中の音楽会がこの後もずっと続きますように。そしてひとりでも多くの人に“人間は自然なしでは生てはゆけない! 便利なこと(高速道路)は自分たちの首を締めることだ”ということを広げて行けたらと思いました。

母は月一回の“緑のまち合唱団”の練習を楽しみにしています。練習を録音し、毎日聞いていますので、家族中で覚えてしまいました。ほかの方々の楽しい練習の様子も手に取るようにわかります。音楽会では一生懸命に歌う皆さんを見て、元気を分けていただきました。思い出に残る一日をありがとうございました。

森の音楽会と小塚山工事



稗田厚子

やわらかい日ざしが注ぐ中、第17回森の音楽会に、主人と簡易イスを持ち参加。毎年周りが変形しつつも息づく雑木林で、「緑のまち合唱団」が、オープニングに故三宅さんの想いの歌「森よ とわに」を合唱。澄んだ音色をインドネシアの民族楽器で演奏する「アングルンの会」。メインは尺八と箏。若い方々の生演奏の響き……。それぞれの緊張感、達成感が伝わり、森の歴史になっていきました。古典楽器のレクチャーも興味深いものでした。

もう片面の森は外環工事も着々と進み、4月には、鹿島・西松建設から奥村組へと交替劇がありました。工事現場から数mの所に住む私たちは、ゲート・ガードマンとの朝夕の挨拶も6年。益々拡大する震動・騒音・トイレの悪臭など、数え切れない環境破壊の中で、市からは、「10年先には、良い所になります」「我慢できないならご自由に退いて下さい」とアドバイスをいただきました。35年間市川に住み、市民税を払い、普通の人間の暮らしも老後の計画も崩されてもなお日本全国、高速道路の歴史はつくりだされていくのでしょうか。

外環の矢切の現状 そしてこれから



石原 修

矢切では、国道 298 号線の部分開通で、県道市川松戸線の自動車の流れも大分変わりました。一番の大きな変化は、大型車の増加です。夜間から早朝にかけてが多く、大型車進入禁止の、朝 7 時から 9 時の通勤時間帯でもそれが入ってきているのは、皆さんご存知のことです。この大型車の混入率は 39% を超える有様です（夜間は 70%）。大体、全線の工事が終わるまで“部分開通はしない”と云っていた首都工事事務所が、圧力に負けて部分開通をしたのですから、様々な障害が起こります。県道の走行台数は、この数年不況のせいもあってやや減っているのですが、それでも矢切全域に及ぶ渋滞で、車の列のできることも屢々です。

この自動車の流れによって起こる大気汚染・騒音・振動ですが、首都工事事務所・松戸市役所の測定では、目下のところ基準値内です。それでも騒音、特に夜間の騒音は基準値ギリギリです。8 車線のうち、2 車線の使用でこれですから、全面開通になったら、思いやられます。歩道橋が出来て、保育園まで孫を迎えにゆくのですが、冬の日、手すりに触った孫の手が真っ黒になり驚かされました。粉塵や細かい粒子の排出は、明らかに増加しています。SPM だけでなく、PM2.5 の観測はどうしても必要なことです。

矢切地区は、外環高速部分の本体工事が進んでいます。1m1 億円の工事費は、東京都部分だけのことでありません。マスコミも、こちらの方も取り上げてほしいものです。土地収用の問題も、「オレは気がへんになっちゃうよ」と、精神的苦痛を語る人もいます。矢切の街を斜めに大きく分断し、中矢切の商店街を潰してしまった外環に、「此処までできたら、早く通したほうがよい」という人も増えていますが、ドッコイ、ここでじっくり、こうした公共事業、道路事業を見直す勇気が必要なのではと思う昨今です。

第 13 回 公害調停

5 月 27 日、千葉市で開かれ、住民 17 名が参加しました。調停委員から、提示されていた調停条項骨子の修正案について意見を述べ、いよいよ最終段階に入りました。

第 14 回 公害調停

7 月 15 日、千葉市で開催されます。



夏の花 ヤマユリ

谷口 浩之

梅雨空の下、北国分の斜面の草むらにオカトラノオが咲きました。まわりの草にまぎれて、虎のしっぽのような形をした白い花穂は目立ちません。どなたかが道から見えるように草刈りをしてくれたようです。

さて、この「緑のまち」を皆様が手にする頃には、夏の花 ヤマユリが咲き始めます。日本特有のユリで花茎は 20cm 以上にもなり、芳香を漂わせます。花には白地に赤い斑点と黄色い筋があり、花卉は反り返っています。



里山や山歩きで見かけますが、市川ではあまり見られません。初めて写真に写せたのは、今から十数年前のことで、個人が所有する山林の中でした。どこにと探す手間がかからないほど大きな群落から、強烈な香が漂ってきて、すぐに分かりました。残念ながら病気のせいでしょうか、数年後には見ることができなくなってしまいました。

市川市では、隣接する地に囲いを設けて保護に乗り出し、毎年 7 月中旬頃咲き出すと、扉を開け市民に開放します。それが、大町の“山ゆりの里”です。広報に開放期間が出ます。草丈は高く目立ち、簡単に見つけられます。1 週間から 10 日間ほど咲き、人気の高い「カサブランカ」の原種といわれている大輪の花を自生地で見ると、一見の価値があります。

かつて、当局との交渉の先頭に立っていらした故三宅佳子さんは、小塚山にもヤマユリが咲いていたのだ、自然環境を壊してはならないと、強く訴えていました。小塚山で咲く姿を見たかったものです。

身近に咲いていた野草が、人の手で保護しなくては生きて行けなくなってしまいました。



参院選の結果で 外環は

西畑 健一

この文章が出た頃にはもう参議院選の結果も出て、政界の帰趨は定まった頃であろうが、日本の政治もそう大きくは変わっていないと思う。

昨年来民主党に政権が交替し、鳩山総理が小沢幹事長とにわか引責辞任して、菅内閣に変わったが、自民党はまったく権威を失墜し、追随一辺倒の公明党は共倒れ、雨後の筍のように名乗りを挙げた保守新党は一向に展開せず、普天間問題で社民党は内閣から離脱。唯一の与党となった国民新党も党首は離脱。

事業仕分けで勢いをつけたように見えた民主党は、予算収入の大誤算でマニフェストもままならず、現実の責任政党の運営にどうしても中央官庁がつかかった官僚支配から脱却できそうもない。政治家中心の内閣主導を標榜し、役人まかせの行政を構造的に刷新すると息巻いていた政治家がどれくらいの政治的な見識をもっているのか。

たとえば国幹審組織を根本的に改めるといいながら、これまでの政府決定事項はそのまま引き継ぎ、今後の運用を抜本的に改めるといふ。東京外環は継続中だから予算規模も構造もルートもそのまま踏襲するというのだろう。40年も前に決定された政策を、現状でもう一度検討し直そうと言うことはまったくないのだ。

自民党と民主党はどこが違うのか。憲法問題についても、対米政策についても、まったく異なるところはない。政党同士が消費税問題で基本的に同意し、なんのかのと文句をつけあい、国民の目をひきつけておいて、財政的理由から10%引き上げを実施する。

国土交通省でも、総務省でも、実権をつかんでいるのは、大臣でも代議士でもない。大体、代議士の力量あるほとんどが官僚からの実務経験者で、しかもそれが縦割りの専門馬鹿、利害を導き出してきたキャリアなので、外環に関連する官庁、それを管轄する大臣以下の政治家で、環境問題や遺跡など文化的諸問題に一見識のある人間がどれだけいるのか。国を愛するといふ、世界的な文化国家を標榜している政治家が、丸暗記の歴史と、人をたぶらかす手管だけに浮身をやつして、地域の実際の生活者の歴史にどれくらいの想いがあるというのか。国の政治の良し悪しは、極言すれば住民の利益の為に役所がどこまで奉仕できるかで決定される。そんな首相が、大臣がこれまでひとりでもいたのかどうか。

官僚主導の政治から政治家中心の政治といっても、法案も制度も運用もすべて中央のキャリアにまかせなくてはならない。

現実と理想とは異なっている、国民の願いに向かって努力する政治家が出現して貰わなくては、これからの日本は財政的だけではなく、文化的にも環境的にも危うばかりとしかいいようがない。

2010.7.3

□探鳥会報告□

日時：平成22年4月29日(休)

天候：晴時々うすぐもり 風強し

参加者：石居 今井 越田 小島 島田 鈴木 藤井 細谷 村岡

計 9人

確認された鳥：

トモエガモ ヒドリガモ ハシビロガモ キンクロハジロ
 キジバト コゲラ ヒヨドリ ウグイス エナガ
 シジュウカラ メジロ スズメ ムクドリ オナガ
 ハシボンガラス ハシブトガラス

計 16種

コメント：あいにくの強風で鳥はあまり出ませんでした。あちこちでメジロがよく囀っておりまして。小塚山では、オナガの一家が営巣しているようでした。
 (村岡幸生)

バードウォッチングに参加して

石居 靖弘

毎年この時期は、新緑が芽吹いて、野鳥たちも葉っぱの間に隠れて、なかなか姿を確認することはできません。しかしながら囀りを頼りに追いかけて、その姿を見つけたときはいつも以上にすがすがしい気分になります。

現在、小塚山付近では、ウグイスがいつも以上に美しい声を聞かせてくれています。トンネル工事が小休止の状態、比較的大きく継続的な騒音が生じていないためではないでしょうか。デリケートな鳥たちは、騒音が生じれば、すぐに逃げてしまいます。今後は、北総線交差部と小塚山の本線・一般部の躯体が接続するという今まで以上の騒音・振動が発生する工事が始まります。その時、どれほどの鳥が姿を見せてくれるのでしょうか。これからはバードウォッチングを通じて環境の変化に注意していきたいと思ひます。

